

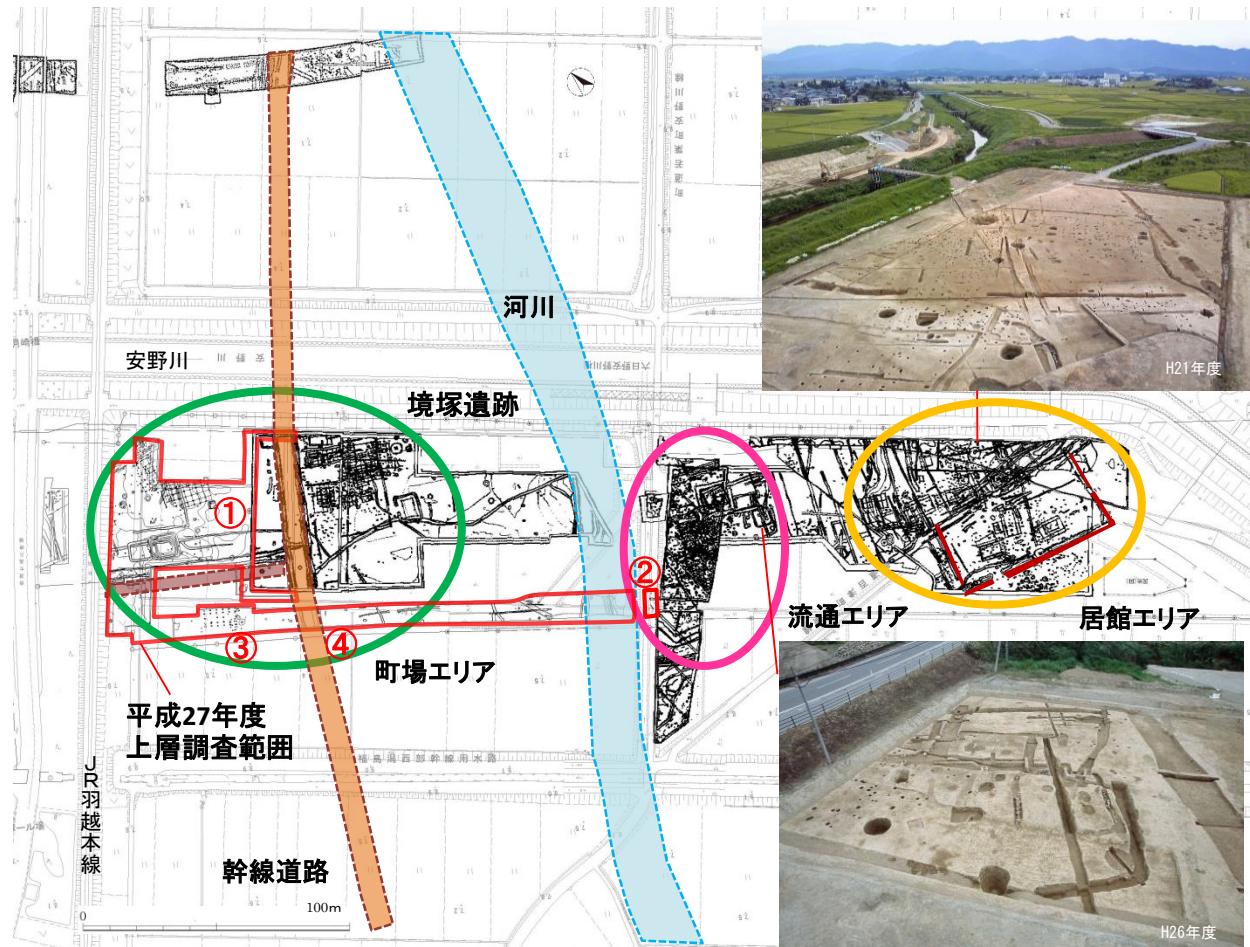


① 方形竪穴遺構(幅約3m)。L字形の平坦面を2段持つ。埋め戻して井戸に再利用している。



備蓄銭出土位置

② 備蓄銭が出土した調査区。穴は古代の溝の埋土を掘り込んで作られている。



境塚遺跡中世遺構全体図



③ 掘立柱建物(長さ約12m)。二面廂付で中央に2つの広間を持つ。

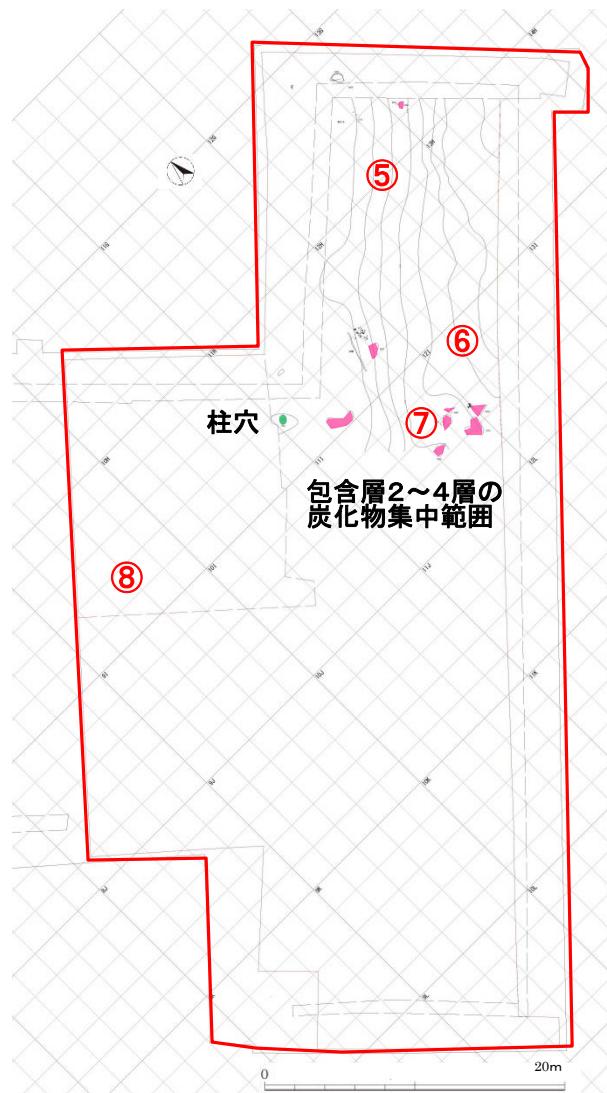


④ 幹線道路(幅約6m・側溝を含め幅約10m)。側溝は3回作り直されている。

2 見つかった遺構

○鎌倉～室町時代 平成27年度の調査では、町場エリアから掘立柱建物9棟・幹線道路・竪穴遺構・井戸21基などが見つかりました。掘立柱建物は幹線道路と軸を合わせて建てられています。流通エリアでは備蓄銭が発見されました。

○縄文時代晩期後葉 大規模な河川があり、大きく上層と下層に分かれます。上層は包含層が4層に分かれ、2～4層で炭化物集中範囲が8か所見つかりました。また、川岸で柱穴1基が見つかりましたが、竪穴建物や貯蔵穴は確認されていません。



境塚遺跡縄文遺構全体図



⑧ 出土した縄文晩期の深鉢形土器。このように、1個体がつぶれた状態で出土するものが多い。



⑤ 縄文時代晩期後葉の河川(深さ推定4m)。南北方向に流れ、東側に移動している。



⑥ 河川の斜面から見つかった炭化物集中範囲や土器。



⑦ 炭化物集中範囲(幅約50cm)。火を焚いた跡で、焼けた動物の骨が含まれる。